

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

**全国規模で初の
JAでんき決起大会**
(総合エネルギー部)

2面

**農畜産物の
適正価格を求め
多彩にPR**
(山形県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



全国規模で初のJAでんき決起大会

累計10万件達成に向けてJA役員らと意思統一

総合エネルギー部



JAでんき決起大会の開会あいさつをする尾本英樹常務理事

JAでんきは2023年8月末時点、全国で約150のJA・会社と取り組んでおり、累計約6万2000件を獲得しています。決起大会では、JA福島さくらの山田賢一常務理事と全農西日本エネルギー(株)ガス部の植松賢一部長から、JAでんきが新たな購買事業の収益源となっていることに加え、「職員向けマニュアルを活用した推進方法」や「ガス販売とセットにしたJAでんきの推進方法」などの優良事例の紹介がありました。出席者からは「どのようにリーダーシップを発揮して職員のやる気を向上させたか」などの

全農は9月8日、「令和5年度JAでんき決起大会」を開催し、JAでんき代理事業者(JA・会社)などの役員ら約110人が出席しました。全国の代理事業者を参集した決起大会は初めてです。

質問が上がりました。

特別講演には元広島東洋カープの達川光男氏を招き、「あきらめない生き方」というテーマで講演していただきました。仕事の取り組み方や部下指導に役立つ内容となっており、出席者は熱心に耳を傾けていました。

この決起大会を契機に、JAでんき累計10万件達成に向けた推進をさらに加速していきます。



JA福島さくらの山田常務理事による優良事例発表

News!



農畜産物の適正価格を求め多彩にPR

キャッチフレーズは「食べて笑顔、作って笑顔」

山形県本部



(株)ヤマザワに適正な価格形成実現に向け理解醸成を求めた折原会長ら(右から3人目)

山形県本部は「食べて笑顔、作って笑顔」をキャッチフレーズに、消費者・事業者に適正価格の理解醸成を促すPR活動に取り組んでいます。

9月22日には、山形県と宮城県に店舗展開するスーパーマーケットの(株)ヤマザワに折原敬一運営委員会会長が、10月3日には山形県を営業基盤とするスーパーマーケットの(株)おーばんに安孫子常哉運営委員会副会長が訪れ、適正な価格形成の実現に向けた理解醸成を求めました。

さらに、農畜産物の適正価格を呼びかけるため、県内すべてのJAにポスターを配布した他、山形県JAビルに設置されています。



「第61回山形花笠まつり」でのPR

「第61回山形花笠まつり」

にも参加し、当日行われたパレードで、長谷川直秀県本部長と松浦季之副本部長、太田聡副本部長が約4メートルの横断幕を持ち、PRしました。パレードの際に使用した横断幕は山形地区センターに設置されています。県本部では今後も積極的なアピールによる適正価格への理解醸成に取り組んでいきます。



JA香川県で事業承継支援を説明

担い手サポーター向け研修会で必要性と手順を伝える

耕種総合対策部

事業承継支援の説明を受ける担い手サポーター



全農は8月24日、JA香川県が開催した「担い手サポーター活動における事業承継支援研修会」で「事業承継ブックを活用した取り組みのきっかけづくり」と題して事業承継支援について説明しました。

2005年に約3万1500人いた香川県の農業者数は、20年には約1万6000人にまで減少して

います。また、農業者の平均年齢も、05年の67・3歳に対し20年は71・3歳と高齢化が進行しており、後継者確保は喫緊の課題です。

研修会に参加したのは、JA香川県の担い手サポーター約40人。本会は事業承継支援の必要性を訴え、さらに本会作成の「事業承継ブック」を活用した事業承継支援の進め方や、先駆者の取り組みをまとめた「事業承継虎の巻」について紹介しました。その後全中から「税務上の留意点」にかかる説明もありました。

研修会終了後、JA香川県からは、「担い手サポーター」に事業承継支援の必要性や進め方を理解してもらえたと思う。本日をきっかけに県内で事業承継支援の取り組みが進んでいくと思う」と評価を受けました。



パールライス50周年キャンペーンを実施中

感謝の気持ちを込めて精米等をプレゼント

米穀部

全農はパールライスブランド誕生50周年を記念して、10月6日からSNSでプレゼントキャンペーンをスタートしました。期間中、JAグループ米穀卸と各卸お薦めの米を日替わりで紹介しています。

パールライスブランドは、1973年にJAグループ精米の統一ブランドとして誕生し、今年で50周年を迎えました。

50年の感謝の気持ちを込めて、現在、米穀部公式ツイッター（現X）でプレゼント

キャンペーンを実施しています。期間中は毎日ツイッターで全国のJAグループ

米穀卸と卸のお薦めの米を日替わりで紹介。アカウントをフォロー&リポストした方の中から抽選で、期間中に紹介したお薦めの米などを総勢700人にプレゼントします。

キャンペーン期間は第1弾が10月6〜20日、第2弾が11月2〜16日となります。応募方法など詳細は2次元

コードよりご確認ください。

全農は、JAグループ米穀卸とともに安全・安心な商品づくりに取り組んでまいります。

キャンペーンの詳細はこちら

キャンペーントップページ画像

牛肉・豚肉の集荷から加工・販売まで 総合食肉販売会社として国産拡大へ



農協ブランドのロースハム・ウインナー



農協ブランドのロースハム・ウインナーの調理例

J A全農ミートフーズ(株)は、牛肉、豚肉の集荷から加工、販売までを一貫して行う総合的な食肉販売会社です。生産者と消費者を結ぶ懸け橋となり、生産者、消費者、取引先の皆さまから信頼され、支持される会社を目指しています。

【広報・調査部】

**大消費地を中心に販売拠点
加工品や総菜など開発強化**

J A全農ミートフーズは、2006年に全農の100%出資により誕生しました。同年、食肉加工、販売事業を展開していた全農ミート(株)と合併し、牛肉・豚肉の集荷から加工、販売までを一貫して行う総合食肉販売会社として事業を開始しました。

大消費地を中心に営業拠点を配置し、量販店や生協、外食企業などへの販売事業を行っています。また、加工品や包装肉



黒毛和牛ローストビーフ

を製造する工場を全国に10カ所、焼き肉店舗を11カ所(国内9店舗・海外(香港)2店舗)、直売所を8カ所展開し、川上から川下まで幅広い事業領域をカバーしています。

22年にはJ A高崎ハム(株)を吸収合併し、全国域でのハム・ソーセージ販売、総菜・中食向け商品の開発、販売を進め事業を拡



グリルドステーキセット



スペアリブ

食肉や加工品の流通に努め 産地と消費地の“通訳”に

中村 哲也
代表取締役社長



当社は、2006年の創業以来、国産食肉およびその加工品の安定供給を目標に、事業を進めてまいりました。今後は、食肉および加工品の流通全体(生産、と畜・加工、物流、加工品製造、小売・外食)を理解した産地と消費地の通訳となることを目指します。

昨今の国際情勢により、国産食料の安定確保の重要性が高まっています。私たちは、あくまでも国産にこだわり、その価値を高める中で、国内畜産農家の皆さま、消費者の皆さまから高い支持を得続ける取り組みを進めます。

今後とも、皆さまのご理解、ご支援を賜りますようお願いよりお願い申し上げます。

私たちは、さらなる事業の成長と事業基盤の充実に向け、次のような点に取り組んでいます。

1. 素材集荷、販売事業の強化

素材集荷や食肉加工を強化 食肉の輸出拡大も重点に

大しました。23年には(株)吉田ハムを吸収合併し、継承した事業を円滑に行うため、適切な事業体制の整備を進めています。

2. 食肉加工品事業の強化

社会構造の変化や食の多様化に伴い、加工品、調理品の需



大和ミートデリカ工場(神奈川県大和市)

合わせた食肉を、産地と一体となり開発、提案しています。

3. 国産食肉の輸出拡大

要が増加しています。国産豚肉のご当地味噌漬(みそ)けシリーズや、こだわりの国産豚肉を使用した伝統製法で製造した農協ウインナー、ロースハムの販売など、商品開発機能を強化し、国産食肉の価値向上を進めています。

全農グループ会社であるJA全農インターナショナル(株)と一体となり、輸出認定工場での加工処理された和牛、豚肉を米国・EU・香港・台湾・シンガポールなどの国地域へ輸出しています。さらなる輸出拡大に取り組み、国産食肉の価値向上に努めます。

会社の概要 (2023年9月1日現在)

- 本社所在地** 東京都港区港南二丁目12番33号
- 事業内容**
 - 肉牛・肉豚の集荷・販売
 - 牛・豚加工肉の集荷・販売
 - 牛・豚内臓・原皮の集荷・販売
 - 包装肉・食肉加工品の製造・販売
 - 肉豚の相場発表
 - 飲食店の経営
- 売上高** 2659億円(22年度) **設立年月日** 2006(平成18)年6月1日
- 代表者** 代表取締役社長 中村哲也 **従業員数** 1637人(うち臨時等823人)



本社(東京都港区)

公式ホームページ
はこちら



<https://www.jazmf.co.jp/>

国産豚ロース使用 全国ご当地味噌漬(みそ)食べ比べセットを
5名様にプレゼントします。

応募方法

2次元コードを読み取り、郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、全農グループ会社探訪の感想をご記入の上、ご応募ください。

締め切り

2023年10月20日(金)
23時59分

応募は
こちらから



こちらの商品はJAタウン「お肉の宅配 肉市場」でもお買い求めいただけます。

ご注文は
こちらから



※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。

JA アクセラレーター（第5期）

採択企業紹介②

AG Venture Lab（アグベンチャーラボ）は、スタートアップ企業とJAグループの事業共創の取り組み「JA アクセラレーター 第5期」で10社を優秀賞として採択しました。今号では2社を紹介いたします。

【経営企画部】

サブスク形式で四季感じる「枝もの定期便」

代表の佐藤真矢さんが2014年に創業したスタートアップで、「日本各地の埋もれた資源を発掘し新たなライフスタイル価値をつくる」ことを目指しています。現在、注力しているのは、消費者向けに四季を感じる「枝もの」をサブスク形式で提供するサービス「枝もの定期便」です。



持ち帰れないサイズの枝ものを自宅で気軽に楽しめる点が好評



提供する枝ものは100センチ程度の大きさ

提供する枝ものは、啓翁桜やドウダンツツジなど100センチ程度の大きさがあります。花屋さんでは見かけませんし、あってもなかなか家に持って帰れないサイズです。これらを同社がセレクトし、自宅に届けられるため、手間をかけずに枝ものが楽しめる点が好評で、定期購買会員数が右肩上がりに増加しています。

JA アクセラレーター支援期間では、供給体制の構築や新たな産地開拓を目指し、仕入れ先産地への訪問や面談に取り組んでいます。

株式会社フェイス

農業由来カーボンクレジット生成&販売

石崎貴紘さんが2022年に創業したスタートアップで、農業由来のカーボンクレジット生成と販売を手掛けています。カーボンクレジットの認証には複雑な申請手続きが必要であることや、現金化にはクレジットの販売先

同社の取り組み・サービスの概要



Jクレジット制度で同社の水稲の中干し期間の延長に関するプロジェクトが認証された

を見つけるなどのハードルがありますが、同社はこれらをワンストップでサポートする仕組みを構築しています。23年9月には、Jクレジット制度で水稲の中干し期間の延長に関する同社のプロジェクトが承認されました。23年度は約2000鈴、100農家の認証取得を目指しています。

JA アクセラレーターの支援期間では、カーボンクレジットの理解促進に向けた勉強会の開催や、JAグループとの協業スキーム検討、次年度以降の取り組み先産地の拡大を目指し活動します。

※1 カーボンクレジット：CO₂などの温室効果ガスの排出量見直しに対し、実際の排出量が下回った場合、その差分をMRV（モニタリング・レポート・検証）を経てクレジットとして認証するものを指す。

※2 Jクレジット制度：※1を「クレジット」として国が認証する制度。

ソムリエのいる直売所 生産者と消費者をつなぐ

JAやまがたは、山形県の山形市、上山市、中山町、山辺町の2市2町の九つのJAが1997年4月1日に合併し誕生しました。管内は、東と西に仰ぎ見る山々と最上川をはじめとした豊かな自然に恵まれており、「つや姫」

「雪若丸」「はえぬき」などの米を中心に、サクランボ、ブドウ、洋梨「ラ・フランス」、リンゴ、桃、トマト、キュウリなど多品目の園芸作物や山形牛などの生産が盛んに行われています。

専門的な知識を持ち 食へ方・保存も提案

JAの農産物直売所「おいしさ直売所」は山形市に3店舗展開しています。JA管内に590人の会員が在籍し、その日に収穫した野菜、果実、花など幅広い農産物を出荷しています。直売所には、野菜・果物の栄養や料理法などの専門的な知識を持つ「野菜ソムリエ」と、農作物の魅力为消费者に伝えるコーディネーター「食育ソムリエ」の資格を持つ職員が在籍しており、野菜の選び方や保存方法、おいしい食べ方を試食コーナーや店頭POPなど

消費者の質問に答える野菜ソムリエ



直売所店内の様子

JAやまがたは、秋田県、岩手県、宮城県、福島県、新潟県と接する山形県に位置しています。管内には、豊かな自然と気候を活かして、多種多様な農産物を生産しています。JAやまがたは、生産者と消費者をつなぐ役割を果たしています。JAやまがたは、生産者と消費者をつなぐ役割を果たしています。JAやまがたは、生産者と消費者をつなぐ役割を果たしています。

JAやまがた (山形県)



どを通して提案しています。

登録者5000人超 LINEで情報発信

農産物の入荷情報やイベント情報はLINEを活用して発信しています。若手職員有志によるプロジェクトチームが直売所の来店者数を増やすため、不定期で来店感謝イベントを開催しています。2022年7月に700人だった登録者数は今年の9月29日に5000人を突破しました。

生産・所得の拡大へ 大規模園芸団地を整備

JAは農業所得の増大と農業生産の拡大を目的に大規模園芸団地を整備し、キュウリ、桃、ブドウ「シャインマ



団地で収穫し初出荷の「シャインマスカット」

スカット」の栽培管理指導を行っていきます。栽培4年目となる桃と5年目となる「シャインマスカット」は今年初出荷を迎え、直売所にも出荷されました。

JAでは、生産者と消費者をつなぐ拠点として直売所の充実を図るとともに、組合員・地域住民にとってなくてはならないJAを目指しています。

| 概要 | 2023年2月28日現在 |
|---------|---|
| 正組合員数 | 1万418人 |
| 准組合員数 | 1万744人 |
| 職員数 | 424人 |
| 販売品取扱高 | 73億7千万円 |
| 購買品取扱高 | 37億6千万円 |
| 貯金残高 | 1682億1千万円 |
| 長期共済保有高 | 4980億6千万円 |
| 主な農産物 | 米、サクランボ、ブドウ、桃、スモモ、西洋梨、リンゴ、オカヒジキ、トマト、ナス、キュウリ、食用菊、啓翁桜 |

和歌山県産果汁で「農協温州みかん」

農協シリーズで初の果汁100%飲料、ファミマから発売

全農と協同乳業(株)は、全農グループが展開する「農協シリーズ」初の果汁飲料「農協温州みかん」を開発しました。全国の(株)ファミリーマートの店舗(約1万6500店舗)で10月10日から発売します。
【営業開発部】

商品は、JA和歌山県農から調達した和歌山県産温州みかん果汁を100%使用した果汁飲料です。素材のおいしさを最大限に生かしたやさしい味わいで、すっきりとした飲み心地が特長です。JA和歌山県農のSDGsに貢献する

取り組みの一環として、原料の和歌山県産温州みかん果汁には市場に出回らないミカンを使用しています。全農グループは、今後も魅力的な国産農畜産物の訴求と販売拡大に取り組んでいきます。



「農協温州みかん」
(190g、179円税込み)

秋田ノーザンブレッツRFCを応援

開幕に向け「あきたこまち」300kgと豚肉50kg贈る

秋田県本部は、ジャパンラグビートップイーストリーグの開幕を控えるラグビーフットボールクラブ「秋田ノーザンブレッツ」を地元秋田の食で応援しようと9月6日、秋田市の秋田スポーツPLUS・ASPスタジアムで贈呈式を行いました。県本部からは、秋田県産「あきたこまち」300kgと秋田県産豚肉50kgを贈呈しました。
【秋田県本部】



贈呈式での(左から)齋藤選手、椎川副本部長、小林選手

贈呈式では、県本部の椎川浩副本部長が同クラブ共同主将の齋藤健也選手にレプリカの米俵、小林広気選手に豚肉の目録を手渡し、ミスあきたこまちが古屋亮太ゼネラルマ

ネージャーに花束を贈りました。贈呈を受け齋藤選手は「いつも秋田のおいしい食に支えられている。活躍する姿を見せられるように頑張りたい」と意気込みを話しました。

JA全農の産地直送通販サイト
JAタウン ショップ紹介

JA熊本果実連

熊本県産の「肥のさきがけ」は、こだわりの極早生ミカンです。

収穫した果実を外観で選別すると同時に光センサーで糖度と酸度を測定し、厳しい熊本県下統一基準をクリアしたものだけを厳選しています。一般的な極早生に比べ糖度が高く果皮の色もオレンジ色が濃いのが特徴です。口当たりはジューシーで、程よい酸味がありしっかりした甘さとコクが楽しめます。

ミカン収穫シーズン最初のこだわりミカンを、オリジナルくまモン箱に入れてお届けします。



熊本県産みかん こだわりみかん 肥のさきがけ
(約5kg入り)……5500円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com



「JA全農トピックス」の公式
ツイッター(現X)はこちらから



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心して結ぶ懸け橋
になります。